

小粉廬日志

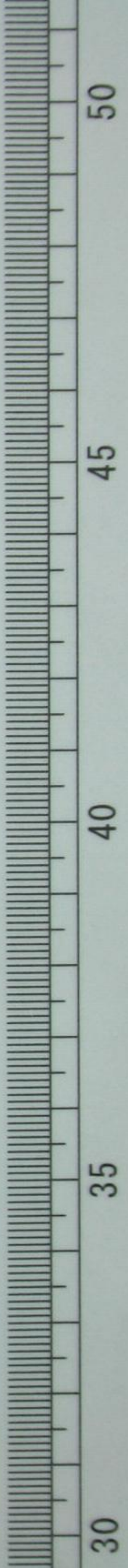
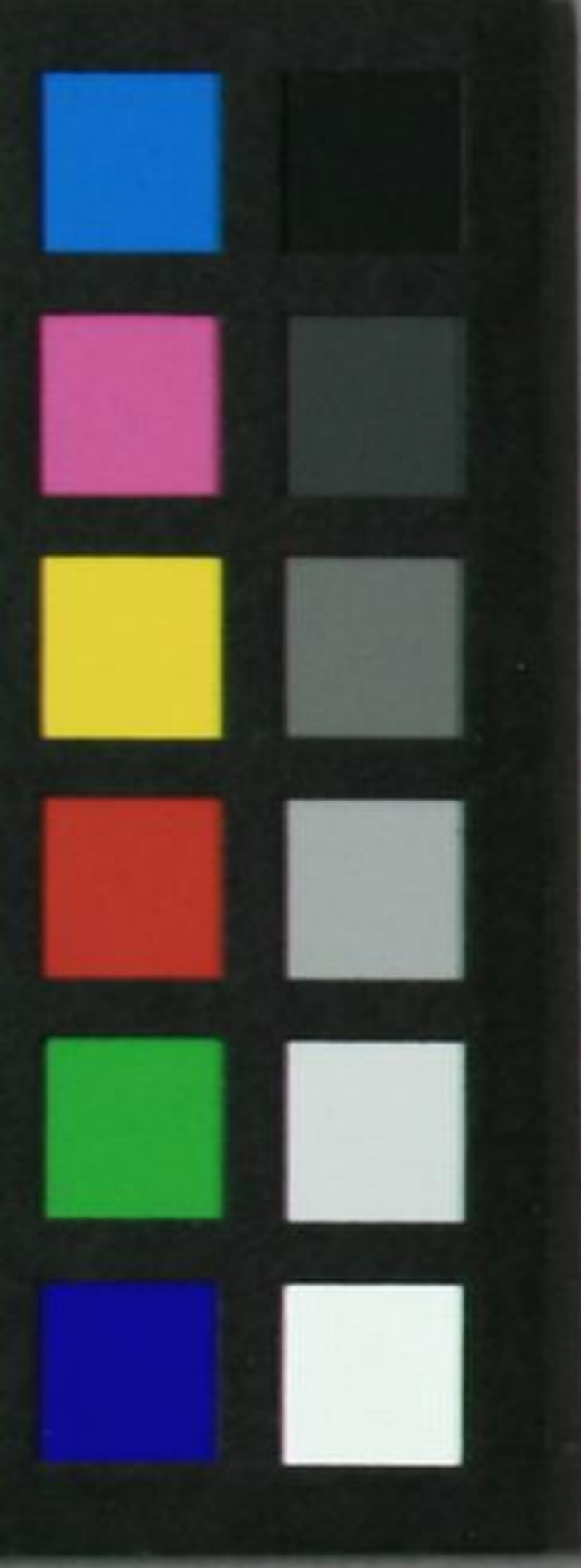
昭和四年
六月以降

特別

14

1919

607



小栢庵日記

昭和四年六月廿降

六月

一日

時、龜山車下三の考、山陽書局の巻尾に
板修を題す、海念寺紛糾問題解
決の考、長崎復外一人宛、知者と号
す、朝吹、豊中、吉丹、美善、平、湖香
を名する、今津ハ一、文政、治中、の、刊、列、の、今

津八一ニ叔前住友信託より預金七
萬圓半孝利子二万四千六百八十
圓銀、馬田徳忠金子馬流難波記印
該坂本三印問題を内談し十一日
五の忠印の押巻敷出交付香典十圓
持分津八一一方代人を差支、教
集神田、田方を猶乞付、又
多の月等數十此運ひ来る、こ
て全部納し得たり、

二日

日

時、森会存を以て、おまうる骨董類を
一之時を移す、阪上弘利再診、
志を此子、又大隈侯の大名志の
アノ前律師来り、酒と始り、
山中、海を、散策丸巻、
を嫌ふ、後、復、具見、
リ、由、金、杉、坊、屋、
葉す

三日

此今朝六時半地震あり其且激、遊程を著
其出取部を、印税法差引残七十二圓三十
圓、銀、午後出游、二三の物を携ふて久へ
又、由書後又遊程を著す、程村宗へ来訪
其時杜次中へも来訪

四日

竹、木林、湯、會、訪、之、竹、来、振、共、漏、生、命、保、險、今
死、之、能、南、主、二十、圓、八十、圓、銀、收、平、明、登
美、之、今、記、内、元、来、決、時、之、河、林、會、後、也

又、川、天、河、漢、後、後、授、會、の、事、物、の、事、来、決
武、田、尾、吉、也、又、来、り、前、田、運、場、士、病、業、元、也
このき、折、合、も、さ、し、七、去、り、午、後、漢、割、地、物、銀
後、授、會、記、事、會、を、早、大、内、の、被、り、物
所、に、開、き、今、物、を、記、し、多、く、時、を、著
す、晚、百、現、り、了、希、と、委、員、と、大、隈、會、館
、晚、六、時、と、興、り、す、

五日

晴、田、代、亮、林、来、訪、龜、山、書、三、と、印、代、二十、圓

拂瀨 中山 申すに十三日 帝制見物の事あり
。 四月 軍中 席屋の菓子を取る
山田 侍 尾 十時 先と後を出上
。 教策 杉 坂 倉の 控 列と見え 日 正 持
。 酒 飲 一 七 地 へ 押 進 せ と 進 へ ち 某 田 の 枝
。 反 西 川 宇 重 印 へ 謝 出 せ ぬ 身 又 吹 の 長
男 来 ぬ 夜 来 ぬ

二六

雨 狂 深 と 兼 ず 下 谷 交 の 水 と 流 せ 方 物 代

。 山 田 侍 更 へ 申 上 五 日 坊 籍 を 解 け 銀 付 二 四 六
。 小 物 志 午 時 而 始 る 物 書 後 又 控 録 と 兼 ず
。 山 田 侍 古 出 取 部 目 へ 申 上 未 持 女 侍 夏 川 持
。 枝 坂 上 七 巻 と 親 族 関 係 有 ち 先 方 へ 送 け
。 三 来 ぬ 後 後 旗 印 へ 世 田 子 を 送 け 来 ぬ

七日

。 雨 先 次 扱 海 の 堀 内 の 女 へ 申 上 余 三 人 へ 申 上
。 いら せ 庭 法 を 申 上 庭 法 の 筆 記 今 朝 の
。 来 京 の 日 へ 揚 裁 を 始 る 作 務 六 石 遣 子

徹唯道史人の詩文鈔七冊を尋る。高田
徳中金子馬流下訪古的方の石の校問題
胃塩津坂本の折合に付て内渡す
武田尾古来談。坂上弘尾古来の注釈
を施す。廣崎市長川淵弘尾の記を以て
証出利す。京都大子園古蹟考を疏
撰して来出。佐藤徹唯の証出を以て
市嶋琢菴の古蹟を考ふる。又池の井何家
家古蹟と校す。後臺不用のとき改上
の層の遺蹟。中田誠を以て自松の古蹟を始

ふ。七月初如高田の三人合。此也。

八日

町。往村家。ハ木林陽美村。或訪。異國書表者
レ。ホルト日本交通貿易史。配本。三菱社
の。試。未。尚。内。表。兼。宗。家。と。電。話。を。交
由。試。田。尾。を。出。政。部。拜。り。て。來。接。村。口。古。居。
多。田。山。在。古。居。十三の拂。午後早大の
往。村。家。合。路。古。日。比。今。回。古。蹟。を。傳
記。資料。を。引。を。始。り。来。る。

九日

日

明朝来船税を兼す、国本寺三出版部
 用として来船、改本三印、高道の維持費合二
 改論より法規施行の件、付来、十の
 三定を付、支し、持前、托と贈、公、邦、案
 定の映書、と、兄、三、印、日、中、印、と、来、簡
 寄、部、使、利、本、し、田、中、修、三、印、と、来、書、出、版
 部、と、し、は、刊、白、皇、子、以、入、佛、總、会、倫、理、各
 儒、教、の、得、逸、政、況、息、志、及、付、息、影、御、者、才
 出、版、の、つ、き、配、本、し、来、日、

十日

明、九、時、出、版、部、と、利、中、と、意、す、十、時、と、こ
 株、主、協、會、を、開、き、も、未、子、配、中、一、刻、二、分
 を、減、す、本、年、の、不、況、も、政、績、と、も、八
 分、を、減、す、余、り、株、株、四、三、五、株、と、其、の、十、と、配
 中、千、三、百、五、圓、也、未、其、金、千、三、百、五、十、七
 圓、出、版、部、と、も、傷、入、と、も、七、百、七、十、七、圓、也
 通、印、編、者、会、村、別、在、平、入、積、本、金、十、八
 圓、掛、本、の、政、三、大、人、と、も、印、刷、總、會、に
 重、役、分、と、附、す、心、と、も、誠、意、を、協、議、す、又、國

寺領に本祭未久と存せし流す、森野義
相子流、高田金子と名に枝幹部の子折
合口題を流す

十一日

町、滞納の元附外税五丁山五十七式納附
田代亮介未二宿、十時より日付印副合
社の役員会、臨時に金子新子未、決
了、山の由、外難、四五、其指、牡丹主婦
割、夏、葉、未、徳、承、高、久、持、豊、三、り、と、付、小

とも流、今日印副合社重役会、牡丹
大崎侯様邸購入の件、可決す、五の
忠一、り、と、未、者、望、口、多、内、妻、外、流、度
崎場、流、大、り、陳、列、の、考、の、貸、付、の、山、陽、貴、一
愛、物、瓶、形、美、器、二、度、り、未、り、山、崎、梅、長、心
持、卷、牡丹、の、為、額、二、枚、揮、毫、牡丹、四、主、物
り、り、カ、ロ、ヤ、の、大、鑑、を、贈、り、未、り、山、崎、山、由、教
城、寺、札、を、流、す、

十二日

雨、村山物と能之由に及記高浅井くは、白石
實三、柿瀬、日年、田中、倫、倫、刊行、公、曾の
西、即、英、美、文、々、来、接、三、其、及、紹、り、ハ、
八、十、四、約、手、是、入、六、十、日、刻、引、畢、ハ、
柿、瀬、と、七、約、印、語、一、冊、貸、付、森、山、島、村、本
坊、主、師、之、及、記、高、三、料、記、を、淡、夫、今、夜、紙、後
一、回、者、三、日、午、後、の、本、を、調、ふ、教、策、珠、環、吾
之、回、者、を、獲、ひ、動、毫、拂、得、文、の、本、と、圖、者、を、辨
ふ、今、日、の、公、印、は、海、心、王、の、人、高、橋、松、中、り、と、托
を、賜、り、来、ふ、古、崎、渡、上、と、電、報、預、利、の、淨、念

寺、問、題、こ、つ、き、る、る、余、も、こ、折、問、に、對、す
る、返、答、也、八、時、三、十、分、信、紙、後、に、投、じ、付
着、の、途、に、就、く、此、行、淨、念、寺、問、題、を
理、せ、し、と、す、也

十三日

晴、五、時、方、田、原、に、起、床、車、中、池、尾、芳、花
の、山、に、赴、か、ん、と、す、る、今、日、車、窓、を、り、郷、國、の
田、園、を、見、る、農、家、今、多、事、揮、秧、七、八、分、畢
了、林、水、詩、集、を、讀、み、多、く、物、を、消、去、八、時、十

新津に暮らして下車、偶と市崎政隆に会し、
二天王新田の家を訪ふ、主人在り、淨念寺
問題につき流石の地味な精進三昧を令し
注取の打合を為し、午時後琢花軒にこもり
二天を罷辭し、新田に入り、先づ長徳寺に
職田根仁を詣り、既性の行状を衆
疏し、淨念寺の題目の今後につき諒解
を求め、多く時を費す、此の境に設けら
る義士堂を乞ふ、市崎鉄大らして作らる
念寺問題と堀張す、琢花別とを乞ふ

十七日、ゆく余の暇三とせ、市崎庵に投
居、淨念寺の前寺豊田精山を祀き、
種々打合を乞ふ、市崎流石も一二の物
と贈る、精山と花談、時を費し十一
時就寝、暇三日泊

十四日

明、市崎來り、一二の幅を持ち來り、市
崎に應じ、匣に巻す、市崎三の為押
高毛、市崎流石余の内訖十四年、政を論を

若し七郷ありて善せざる者罰を擧ぐる事あり余
五十五歳に於て細書し時勢を論じたる書簡
あり一談快とて林父の如きも之を高く賞す切
に余は後を乞ふ乃ち所懐を明して眞宗上
皇長承次来泊余の隨筆を贈る午後三
時長崎に渡り六日未だ北百人寺の評議
法代側へ抗して起る強下人あり余を怒
談時と移して遂に要領を以て夜より定
酒を飲法を續けし曾廣瀬の如くも
論あり余も徳示すも亦の打合とす

十一時迄ある。上皇長承次も来泊

十一日

時朝来上皇長承次来泊余は況を再訪者函
牘題連言書山牘の揮毫の時を移すあ
人二三の古冊を贈る。客去つて又揮
毫十時五十分命にゆく淨念寺に展
養、廣瀬院主に余の任職被題詞の題
を託す大出回云を得て約束書在心
り、院主外甥代并に徳代に及ぶる

者、式志者大井七郎等皆油印を為
す、物山順三曰付、為中一の島津被太
郎と指あり余の案案、曰志と承め、四時
芝田、度、渡、命、英、大、中、元、王、と承、
今夜、閑、休、者、一、回、と、有、格、致、と、振、き、余、も、
無、用、の、閑、多、と、避、け、一、長、寺、の、後、真、二、共
力、ま、し、し、と、笑、此、し、十、一、時、の、家、を、撤、し、余、の
娘、の、誘、り、に、任、り、日、花、月、と、小、雨、十、二、時、就、余
こ、海、の、

十六日

而、後、中、夜、七、時、起、床、高、島、流、来、未、く、形、為
四、花、の、織、物、を、船、形、の、酒、器、を、示、す、余、之、織
錦、一、寛、亦、言、下、福、本、二、等、を、贈、之、上
野、ま、さ、小、次、次、と、来、り、校、友、西、川、宇、重、郎、高
森、金、造、高、橋、次、吉、亦、来、訪、十、時、上、野、之、誘
い、ん、と、新、設、の、圓、香、鉢、と、兄、の、笠、卡、市、中、
小、と、今、す、芝、田、高、と、作、り、了、る、木、派、字、敷
敷、と、世、々、心、受、く、施、飯、の、物、く、り、市、島
鎌、太、郎、高、橋、明、三、と、共、に、豊、田、村、山、の、庭
退、閑、を、評、議、し、十、二、時、高、橋、致、と、祝

のり、未合若町古鏡古土田上を富原高
森高橋流古法水中四甲寺より席上
余固考鏡利用之鏡一場の法説と云
二の道鏡して故食之物く、故五十年の如
南義三丁未訪、市山鏡大中らる物と
贈らる。没り中の方橋照三二人を留め
三時十六分廿四をもおし四時半新島
入り篠田と投す、淨念寺物件一件和
解と見らんも尚前途のきこと云
心多し、三日の輪旋余願の度、家信

二接去、何人も着港七敷せり、映西的後立
二外去

十七日

明五時起床、長洋松雨の揚川親橋待を後と
同宿の菊池懼をと治す、舟江の若代橋新架工
事七八分成る、百五十間、締め石橋也、先夫
廿七回忌法要と前日淨念寺に堂及び二作今
日菓子高し、家紋入の干菓子と注文親族に
贈るの手配をす、古橋義彦に問す、又真

崎桂治中へ簡書、松井郡流安藤文祿山
田敷城村崎結雁文々来揚十一時来
客一百七率七行形亭の影生處に飲む
お原次去し来席、夕刻錫原處に轉次
お梅、立寄り深更帰臥

十八日

時起来宿醒を免ふ麦酒を飲け之人も
解く、人の爲に座し扇面十枚易持毫
高左次去来証、お梅は校規則を賜

と云、余の少年時初是英茶を嘗み行そ
校の規則余之れを得しを去ぶ、吉田和男
未訪物も賜ふ返礼に贈り一乾海苔
も考ふ。栗林羊一山田敷城高橋松田中
杉井郡流高橋栗林去後松井と飲
去終、高家の於亭、生糸、持飲、此家
信川、臨如眺比直也、小山三八七才あり踏
去、お梅は多礼も物を贈り来る、波島
里英茶を、余の押直毛、扇子十本、小
包、お梅は去、八時三十分の汽車より歸

車の余に就く、杉井山山仙翁新吟中、暮汽
車に、まあり元気の備、外山仙翁の出来
する、今一四車す

十九日

晴、汽車中、赤坂駅一、今も、九時十分上り
着、車に物毛、丹兵衛原平、今も入者、枕
到来、三有堂の礼謝、赤坂、琉球、松
朱塗の硯、おと娘、遠洋子、今も、
自守大子、并、赤坂、聖地、一、自心と、刺

一、銀巻の文鏡を娘、早稲田大子
と余を評、説、一、娘、おと、書、面、列、大
隈、行、考、差、車、田、萬、花、お、木、由、状
列、一、其他、十、数、道、の、雜、信、列、一、西、河、宇
重、平、と、来、寺、新、江、東、来、と、伝、香、と、梨、果
列、未、お、前、と、植、木、教、お、と、色、附、の、手
入、と、す、す、不在、中、の、家、事、と、理、め、又、施、録
と、兼、す、一、三、時、道、雷、吟、り、娘、お、列、一、大、阪、の、森
お、又、と、吟、の、高、き、と、娘、お、来、お、と、字、却、も
真、吟、と、お、と、娘、お、と、

二十日

時、臨字子并代、お、御状を呈す、御返を奉
す、平、御登美、大、分、代、の、件、を、奉、後、十、時、分、代
：出席、礼、負、一、回、に、愛、典、を、行、お、及、口、献、を、奉
訪、午、後、義、族、分、館、に、文、の、協、合、の、例、合、を、開、き、前
代、漢、士、山、柳、儀、重、英、回、の、婦、人、冬、に、推、測、經
こ、し、き、中、相、確、を、り、し、漫、談、史、に、就、き、五、時、に
辨、証、を、續、く、河、原、久、寛、十、手、訪、お、を、賜、す、
阪、上、山、花、事、り、注、射、を、施、す、出、版、部、に、近
刊、書、五、部、配、本、に、條、四、體、造、り、に、亡、妻、の、記

念録を定めておる

二十一日

雨、田、中、穂、節、子、訪、今、日、午、後、の、講、談、會、分、館
に、新、作、お、久、送、奉、り、し、う、兼、に、現、職、に、在、り
共、じ、東、を、陳、べ、て、あ、る、森、松、夫、丹、美、一、原、平
二、簡、す、又、藤、岡、鏡、造、に、御、書、を、お、寄、り、京、都
の、神、樂、江、卷、石、二、簡、し、て、内、務、久、寛、氏、に
の、画、を、囑、す、正、午、鏡、葉、集、に、宋、部、に、御、書、を
送、り、午、後、を、與、り、し、て、五、時、に、午、後、三、時、大、隈

敷色と字のせも鶴由に判すべしと字の選擇
を申送る。今朝宗家を訪ふも五十二の浄念
寺件の縁を報先ず、難波理一の身訪
方山今般も亦九の田中泊越号今三件来前
五十二の浄念寺をも撰撰と知り来る。光を
付の光散来部楽座の映畫をも見ゆ物
神楽江の堂石の道前列の由久竟の簡
柱打の囀と座一早稲田三光の書指の二連三
り、垣原正直もともむ三十日二三友人
と縁ふに報る。

二十四日

雨朝未粧と著す。十時日誌印刷会に
列り、未未の総令に臨む。提案するに異
をく決す、本功配申を割。余の配申全
せる八十一田ある八十七田也。本功費
共金二千三百九十一田六十六也。其の
即し沈香と知り来る。中記款流も
書、新島の校方の考所子十捲物。其
夜今此重役と星宮茶屋。飲正、内
し未也。

廿五日

晴、西京の祇園に、方状を寄り、新河を四行
去りし来者、且梨果を贈り、来り、異國書考一
冊、紙本を多く、先を付し、出遊玉川町に
茶を贈り、打口寺に、同方と贈り、同拂
入、口を携り、飯し、下谷又の里に、五六
の方と贈り、四十六、同拂、賀田直流と
此若を寄り、来り、難波と書す、木林、脇美
樹直行

二十六日

晴、真珠桂、吹り、リ、フ、ト、ン、紅産二、函を贈り、
ケンペルの冬、府紀の、と、後、主、婦、と、友、社、と、
今、其、の、来、り、余、の、不、照、を、此、の、武、田、尾、太、出、飯、
用、り、し、来、極、不、又、江、第、一、燈、を、斗、行、沼、田、茶、
二、三、と、来、出、池、畔、の、草、花、を、寄、り、池、中、の、
睡、蓮、如、の、し、花、を、寄、り、池、畔、の、草、花、を、寄、り、池、中、の、
山、茶、三、海、田、柳、代、十、八、同、拂、満、西、川、宇、重、
即、ち、梅、花、を、贈、り、来、り、難、波、と、書、す、
ゆ、と、稱、す、字、家、書、欽、派、を、寄、り、念、寺、二、件、を、

十日の金と進子。文の協会の代負板本静寛の
松本良吉来り、藤知氏の故を以て中々西人
を以てす。亦、登美久比の由りて来、午後五
山合、利り田中光政伯の懸、方人等と臨む。
首相宮松徳川園順山内豊日榮等、祝言
誦、漢より高田三上、余、土方、信、本位
迄、今も定、外室田義、又徳、中、順、次、漢
説、而、後、伯、の、名、を、辞、ち、り、合、衆、立、る
先、内、閣、議、持、續、の、端、外、出、つ、台、邊、山
中、指、し、り、す、考、誠、必、技、ち、今、二、の、き、果、大

う来也、その田中伯祝賀席上余、伯の故
味方面を説く、

三十日

日

所、段上、花、も、り、注、射、を、施、す、内、田、貢、死、云
三、竹、山、の、志、を、し、て、代、悼、せ、り、あ、香、典、十、有、終
る、白、石、堂、三、子、の、説、を、傳、へ、り、教、束、文、の、書
淺、入、心、を、作、る、花、干、の、園、方、と、婚、む、日、本
橋、三、兵、衛、を、婚、む、ゆ、り、上、夜、壇、原、正
友、松、久、元、元、市、地、の、婚、む、と、祝、む、中、途、入

着古の夏酒を喜用し大の暢三日席
下村山大の酒を物と物り来す。

〇七月

一日

晴楠瀬日年十久流、右陣と感し午の
酒を飲る午膳三時、夕夜早大の陣
部と田中伯を早る、茶寮、招飲、高須
芳次郎、海産物二種物り。

二日

晴、水原三村山、飯上、花、夏、酒、朝、野
の人員、老、生、表、鉦、飛、人、暮、を、購、ハ、女、の、費

二日又、福を徳大らより櫻桃を贈る来り
山口重松支店に及物を贈り、午後山崎
三村内田貢の告別式に臨む。飯村俊三
より来り、濱口民政堂総裁組閣の大命を
拜す。今夜神楽及下内と亭に交際、梅
座の執事、若十敬答を令し、程々の
打合を為す。市田通代社より来り。

三日

雨相来家花園者分類目録を成り、金内と

次子孫振、理髮友村山、此の山陽寺
梅利、余の題連を成り、午後七分
目録と終り未成りす

四日

雨相相来同者分類目録を成り、九時日清印刷
会社の案件と帯の増田義之を法事
篇田徳場合の案件より来り、出版部の
幹部合に臨む、高田小久江と吉田秀
人の然るを題目を協成す、五時後

七日

日

小舟有賀長崎より流し奥田倉倉庫有訪
 麦酒ニ打廻りて、河井安後より来出、今付
 ハ一と依所の菊苗を贈り来出、坂田戒
 り来出、家内田方目録を終り、吉田秀
 人より、干後ち山内物にあり、前田寅の告め
 式に臨む、又高士名所、田より、河田壽一の告
 め式に臨む、津田の告め、二二の岡者
 を携ひ、細川く三十四山本、三十五月掛、今
 社の案内、竹久江成と流す、

八日

小舟有賀長崎より、家内田方目録成り、和田寛
 吉より来出、又津田江巻不より来出、段田
 結士直義訪を入津を、吉の段田より来訪、前田
 の代り、三十四の板田、以て来訪、京都の
 小村一太より、贈りて、目録有賀長崎、友人、津田
 の光悦寄も、八大集を、おら来り、来り、光
 友より、ハワケ装束のペリ、ハカッターを、贈
 り、干後、河井、安後、来訪、和田、寛吉、に、茶
 二時、出、贈り、物、を、贈り、て、流す。

九日

時、森陽美樹寺、時元、重大江乙、疾つ、版上
弘危交り、未、西原の神樂江、甚石を、由、
依頼の、揮、万の、書、畫、四枚外、心、お、一、幅、を、郵
区、未、十時、印、刷、今、代、の、重、役、令、々、
臨、ち、午、後、田、中、光、顯、伯、未、訪、為、安、園、考、を、換
去、目、ぬ、に、記、入、城、後、の、旅、費、ハ、十、路、日、早、大
う、送、り、来、る、依、務、新、二、宇、新、江、新、交、の、一、要
件、を、帶、心、未、接、昆、田、未、二、八、月、後、山、陽
未、亡、人、危、馬、と、り、く、

十日

雨、夕、吹、着、三、任、官、三、筆、祝、物、を、贈、入、内、子、同、付
白、木、倉、共、内、倉、之、物、を、贈、ぬ、切、書、後、家、尾、の
書、畫、山、骨、是、日、ぬ、を、心、未、成、り、夫、帝、道、に
り、来、者、文、三、交、の、来、り、

十一日

時、古、柳、島、恒、森、陽、美、樹、寺、未、接、四、本、此、の
偏、轉、多、小、姓、某、才、多、う、活、派、を、持、込、者、生、の、代
の、つ、を、流、す、日、同、書、一、日、探、を、心、未、成、り

其申元の挨拶に物を扱せし克を矢吹へせ
す、十久江津一乗迄送て内着久克より訪
巻石画料万四文、酒二瓶、贈る。京都
那宗江津石、潤筆料八古状をひらす。
所得税徴票到来不當の知平、二つき
交渉政訂を要す。午後お出、白米を、物
を贈る。ゆゑ。

十二日

町、山田河津、其扱を忍んてい人の

為め、揮毫、十日を費し、十数紙
成り、宗家と物も贈る。午後七時、揮毫

十三日

町、骨董酒、目録成り、今相宗家を、送り
て、浄念寺、河越、と挨拶す。八時半、夕方、三十分
前儀、お母、内田、義、来出、村山、秋、浦、迄
頼、山、陽、の、幅、の、二、連、に、懸、四、角、を、一、克、を、何、れ
と、出、張、り、も、信、銀、坐、に、物、を、贈、り、湯、生
者、に、飯、し、下、谷、に、回、り、文、行、書、に、二、三、の

圖書と贈ふ、本ヤ馬棚列用、馬蹄銀
（一）二（一）瑞西製小缶式インクスタンドを贈ふ
掛物一箱古洋、表紙依頼、雑誌を筆下
す、神楽山江巻石、来出、今夜八時三
十分上、中、生、青、柏崎、向、大、城、後、夜、友、大、合
、臨、ま、ん、考、也、一、の、田、中、徳、信、書、の、新、次
郎、北、洋、新、次、郎、難、波、現、一、也

十四日

日

咳、四時起床、六時柏崎、着、多、教、後、友、也

迎、天、京、旅、後、三、投、五、校、友、と、海、濱、の、
比、原、を、納、り、午、後、一、時、中、各、校、を、合、席、と
し、講、演、会、を、ひ、き、余、講、演、と、其、ら、の、新
河、の、校、友、と、飲、出、五、時、河、部、橋、の、校、友、大、合
を、つ、ま、り、未、今、七、十、元、夜、を、早、り、余、元、夜、と
無、事、と、題、し、一、切、の、交、往、を、試、出、後、カ、
合、を、ひ、き、午、後、五、七、の、校、友、と、一、三、三、鐘
別、段、に、酒、飲、し、七、時、今、夜、十、時、一、行、塔
友、と、余、氏、と、り、止、ま、り、臥、す

しるし雲丹を好む、四五の雑俎二編
可、前田昭山のや説と讀み時を移す
紙後、皇正度今照隆とて余の揮毫を求
め来り

十七日

頃、東京開成館余の隨筆より二篇を教
科書に採録し、以て台照令あり、讀者を其
公、大石現用未活、以人の為神意、内局
久寛未活、卷石山、山留本、志見尾、

依頼、午後光を伴つて出遊、銀十と物を購
ふ、物一、夜に入り地震あり

十八日

頃、内務大臣宛に、閣下、随筆と筆す、毛利吉
彦、寺子活、古橋順三、河念寺問題二冊有
状を乞ふ、帝道の破産、著者、細川潤
一、代人、野村毛未稿、出版部、近刊
三冊配本、廣井一、近刊者、寄て来
り、久米正雄の小説を讀み時を費す

今夜林多しめり日暮れとてゆくや冷花の庫より
リ麦酒を抽き来り一瓶を仰けり
し

十九日

時、本橋陽美村山崎の馬久米西雁の
監事早 後みろく、十一時迄を耐りて日
本橋三郎に別り物を贈ふに物に博文致編
輯おしと来書、又幸道に就長より来簡、長
井一二の問を空のす。

二十日

時、田村壯二、木村山俊、久米次、内田眞吉、鹿の
進徳文を草し略り成る。文藝春秋社下
リ来簡、吾尾の進徳文と大政の志木
伊兵衛に投す。午後更なる二枚者より
若木、郵送、希而破者等ありし
余の矢権株執事、道し矢と執事、更
を託し申す。内田七郎、次来、復士、
青龍を郵送しし意を承り、午後
外出一二回者を歸りて、今夜車馬分

未掃込株金拂込と指使し来り、竹窪田鏡
造りし、近暮幕末百石と定めて来り、大
吹者三々、海に利ふ、小柄舟鏡、高橋を
解す、篠田の御志と為す、高橋海三々
より又、真、崎柱か、一々、来り、午後暮
族令、飯、列り、又、飯、令、の、例、令、と、臨、み、出
井盛之、足、他、衣、二、業、の、後、前、身、為、市、出、木、向
去、牧、彦、七、梅、士、の、道、路、の、今、昔、二、つ、き、長
時、乃、の、海、濱、あ、り、去、り、的、な、切、事、

二十四日

時、希、通、株、拂、込、促、令、の、件、二、つ、と、今、早、朝、回、各
者、島、町、の、内、田、七、の、御、志、を、給、り、と、梅、邊、の、人
知、り、田、上、次、其、訪、若、者、と、給、り、と、新、銀、を
差、し、り、八、三、三、百、田、宮、三、の、枝、代、の、内、田、御、志、
者、す、人、午、後、幕、末、百、石、を、後、人、の、時、を、移
す、篠、田、鏡、造、り、し、来、り、

二十五日

時、及、上、山、花、病、心、の、為、来、り、診、石、心、三、つ、

圖書館 梅屋 年二 高田 祝賀 今 羨 羨
ら 来 也 午 後 七 日 暑 熱 と 閉 つ て 志 き け る 陽 光
の 行 を 終 止 午 後 七 上 山 行 来 珍 五 時 紅 葉
後 と 判 り 三 人 今 今 七 日 也

二十八日

日

頃 朝 来 他 事 行 を 終 止 後 夜 朝 来
と 近 著 梅 屋 後 と 善 也 山 田 山 田
と 山 田 の 印 影 判 来 光 を 傳 へ る 三 城 回
者 を 判 心 中 央 傳 来 梅 屋 の 名 を 取 扱 一 七
頃 午 睡 一 時 可 元 め 事 又 他 事 行 福
を 終 止

二十九日

頃 本 林 崎 田 石 田 美 作 を 付 け 来 返
在 京 城 山 人 橋 本 車 六 市 行 来
簡 余 の 他 事 判 来 の 所 感 を 云 々 し
来 返 朝 来 他 事 行 の 行 を 終 止 山 田
と 十 数 枚 判 来 返 上 山 田 判 来
珍 今 判 八 一 山 田 判 来 七 日 也 午 後

能方と讀み、九十方の日着紙と稱する三時紙
上野迄を歩し七時、上海寄吉柳馬場の
寺到り又飯沼知信松尾等と湯と来て

三十日

桐尾休休の妻秋の四、後、田中光顯伯
後赤朝方より真崎桂次郎へ出状を賜
す、在馬場内の生田菊と讀み、正午文の者
院の幹部と大隈令候と會令しあるが
折合と考す、尚書後赤朝等の稿を終

あ

三十一日

時、村山物へ申来り、松井梅代中二つ
斐拂ぬ、文の巻を存して埋蔵形を考す
猶めて物づく、午後苦執と謝つて隨筆
の稿を終り、附加稿を新納付、湯
後赤の稿墨法と讀み、生田菊と來
也

古物置櫃の清いこと

三日

明相来徳筆の原好を心へ石田美作と
来山、主婦之友社と余の考を去并に海内の
字を定めて来る、五十員力に此を費す
午後散策、ゆき尾休休、疑獄難
獄中、小町但轉々件と法文の時と
移す、

四日

日

明相来徳筆の行を修む、阪上町、江射
午後徳み光を付して邦楽屋のト
キと観、吹方井美と歌、とゆくの尾
依此の若と讀む、

五日

明相来徳筆の行を修む、阪上町、江射
を施す、執筆、と傳ふ、回原屋に飯し、所存に相
を賜つて、徳、と税車、更心の件、に付文、こ
税、為、名、と、利、と、交、渉、す、午、後、又、徳、筆、

を終ふ、希も、夜を更け、人細川潤平ら、内
容証明、有る、批判、余の、株券、分賣の、結
果を、云々、前、田嘉平、等、等、在、上、也、
有、物、道、恒、と、未、詞、

二日

明、朝、東、又、隨、筆、の、原、形、を、必、く、正、午、に、
十、数、枚、成、る、和、向、易、書、と、未、書、を、三、卷、
六、冊、と、し、到、来、の、と、を、内、田、七、郎、に、郵、送、す、

七日

明、朝、来、隨、筆、の、形、を、終、め、正、午、に、
十、数、枚、書、き、了、る、山、田、信、心、未、の、二、
三、十、日、風、場、士、出、版、部、と、て、持、ち、申、の、四、文、
教科、書、校、正、全、部、畢、り、了、る、と、報、
告、の、為、来、訪、午、後、隨、筆、の、約、者、き、つ、け、
供、入、て、出、游、心、子、亦、隨、筆、を、終、ち、文、行、
中、に、埋、藏、新、島、香、代、三、十、日、抄、也、

八日

時毎の著、二供へ此日中散策するもの日暮
近に帰るも不快を覚ゆる。二つまじしふも
朝早くしるし光を付れ浅草の観音を養
し上野松阪尾の日の無訪人を観中
央スティーレコンに飲して物ぐる不在中武田
尾友某の午後又池を遊んで終る、山田教
城へ一言をも見ず平空登屋天久寺迄今日之
秋もさるる氣温九十五度、秋又入るも風
尚さるる氣に困む。

九日

吟、朝来池著の原形を心武田尾友
山田梅古出版部のお神書の件に付来流
三葉始りし十二日午形期出を報し来り
来りの人須磨の坂井次永し来り前
崎男の既し云りし、午後七時熱を
冒して志きうら池草を好く著るを走ら
ず、五時神楽坂下の舟を舟に五十里力
七折敷教科書念て出版奉り勅しつる
今後の事も協働し武田尾友山田梅

席、甘芳の楳心雨ちうなるも地を渡するは
う利、あふる有字尾の海の方利の

十日

町、比の城すこと二尺餘の身、あはれをわ
入、城又破くも有物御、ま、う、う、井上
秀一も、来、山、田、教、城、の、是、向、利、の、ま、と、は
を、出、海、浅、岸、親、ま、と、寒、夏、し、人、形、雨、助、六、方
を、依、中、ま、ま、各、地、人、形、標、を、か、る、二、指、三、十
五、と、毎、の、甲、原、尾、に、飲、し、七、物、を、干、後、六、院

十一日

美、の、船、を、終、む、山、の、海、は、大、坂、の、南、木、芳
大、り、を、付、ゆ、え、来、訪、多、時、法、し、七、寺、
町、相、来、志、草、の、執、業、を、つ、と、め、十、数、故、成、
石、塚、を、り、ま、ま、を、付、め、す、ま、の、未、去、田、や、夏、ま、
の、十、一、時、光、夏、を、付、ゆ、日、本、橋、海、を、通、に、故
業、信、の、ま、ま、を、通、し、し、七、寺、又、隨、業、の、船、を
凡、り、夕、陽、を、照、る、

昨たらしむ事、徳孝の稿を終ち、内山省三
らし来出、午後武蔵野の稿の活字を
ゆ、道田原局に送り、走りの、夜来向
り

十五日

武蔵野の稿を山田通走出、政部の二案件
二つを、午の稿、製本成り、午、下、原稿、異家の
教科書十冊、所達、本、森、脚、美、附、来、次、徳、孝
の、原、稿、を、心、る、文、屋、春、秋、社、と、定、め、お、か、を

需の来、午後、小林信三の、犬、を、漢、文、午
後七時半の稿を心る、午、既成の稿の
不備を補足する、一日を具、午後、驟、雨
去来、一日、花、長、夜、三、入、り、雨、入

十六日

雨、風、朝、来、徳、孝、の、原、稿、を、心、る、大、石、理、四
を、指、改、し、徳、孝、校、正、の、打、合、を、為、す、出、版
部、と、し、近、刊、三、本、能、達、午、後、七、時、半、の、稿
を、修、正、又、ハ、況、を、漢、文、時、を、移、す、南、京

若方柳の馬垣好又辰差の清忠也。

十七日

晴、朝来絶筆の符を十数枚心る。六角亭
大寺とて西瓜を好む事あり。十時和坐迄、
数葉外とあり。飯す。午後、絶筆を筆
作。丹美原平く有状と有す。今才均集
を讀如且つ抄す。

十八日

日

朝来、古一ありて絶筆の筆を癢し以
説を讀む。午後、若熱を忍び、絶筆原を
二十数枚筆心満身汗淋漓。

十九日

晴、朝来絶筆の符を心る。希重の破筆を
讀む。他人未接人を備ふを逐國の大掃
除を行ふ。正午、山寺へ外出。和坐以甲
氣を強ふ。七回原居に酒飲し。尚書抄又
隨書抄の筆心を讀む。武田信玄の科書

一件のつぎに、^{（エッセイ）} 獨り、備前大元行船立
時二十分前家附近の上を、おとす。我元行
棧敷甚も遠、隨行、校の如く、不、こ、う、う、

二十日

明、六角宇から、遊、と、是、す、無、凡、の、若
熱、と、因、み、芝、を、據、の、そ、出、遊、中央、停、車、所、公
是、と、酒、飲、し、て、遊、る、ゆ、に、横、臥、せ、て、後、と、後
去、又、今、才、油、集、を、後、る、武、田、屋、を、去、り、
五、十、分、方、と、及、神、考、の、文、海、件、解、決、を

教、す、今、の、如、の、と、隨、筆、の、筆、也、を、後、す、
日、元、君、市、崎、徳、原、の、も、此、利、す、

二十一日

明、長、風、あ、あ、つ、し、若、を、日、の、七、隨、筆、の
行、を、修、め、し、て、日、を、あ、す、り、午、後、又、甚、心、今
津、八、一、と、し、来、也、

二十二日

明、朝、来、隨、筆、を、筆、也、す、工、部、分、朝、出

菟：師又換所を生じ修理の爲め二十時冒
逆心の節お出づ、十一時借んて光を付る外
出味系：霞と喰らふて喰る、午後仰臥
詩集を讀み且つ抄す、隨筆原稿の目録
を心の、おぼろも、おぼろも當代橋の開橋を報
一未、

二十三日

秋氣を感ふ、天雨を催す、相未池ありの
筆心：没頭す、阪上弘房より、注射を施

夫、吉田より人又訪、午後借んて光を付る
和歌本座の映畫と見る、アムペン政生
攀り、最も其を感ふ、田原より、飲して
喰らふ、ゆき後、喰らふと、松をツエ伯翁
の映畫を見る、此、山本書店：七十
二候、名花、畫、詩を讀み、午後三時十三
分、ツエ伯翁去る、

二十四日

晴、池ありの、行を感ふ、没頭、午後七時き
續け、二時、池あり、借んて、去月廿五日、池筆

此行以来約三十日、毎朝早起と聞つて一日七筆
と勉め、用紙六、七枚筆心畢る、尚原稿一冊
に元々ともを元ふ、益々進んで益々、筆もとも
感ず、尚原稿自らの努力を安す。

二十一日

日

雨の後、晴十、彩の執筆を度し、筆難紙を
筆す、亦云きり、随筆の稿を補修す、
出紙浅き紙方を塞ぎ、紙心二、三回、拍を
踏つて均す、讀書且抄録、時を移す、

二十二日

晴、隨筆を補修し、時を移す、田中光
助、向とも、米岡山の古紙、筆、破紙、今
本二冊、配本、松井心夫、久内、平、
を、修り、し、ぬる、夜、こ、入、り、念、用、社、合、の、
速、達、郵、便、に、

二十七日

晴、朝来又隨筆の稿を補修す、服部耕
石、未、法、筆、抄、方、田、中、光、助、代、の

子ニ交代午後文の巻を訪問し梅齋
五士行を時平公七笑外一を贈小
三十日拂入和生を回しり物書は多残
若云烈日中九十二分午後旋録を業
す

二十八日

昨後夜和方今の河原家を讀む。坂谷
養中やその訪書書畫の鑑定を始ふ。公儀
の筆抄く物を贈る。左朝解子安南道平原郡

石炭加ふ所如良くも自刻瓦印十五を贈り
来る。未だの入りぬるも余公隨筆を讀み縁
因からる。皆余の氏名印也。午後琳瑯閣を
訪ふ。集古法帖七前賢故實二十冊の
代價の酒三十の拂。台北の山中推し来る
余の瀧台の有無を照念し来る。武物金
浮書和田萬吉の書也。到る。

二十九日

昨田中伯と書状を為す。朝鮮の加藤如良に

必方と書る、台北の山中推して道電を走る、又
者尚と投す、後藤相ちりの支那法大と
後ち飛を或法即こ尚す、午後雷雨の驟雨
あり、又徳業の病も終る、其海法入重
忘

三十日

明、三雲殿一らをも余の徳業に就て其出朝
未迄事の終を乞う十数枚成る、其海を訪
めを刺とるす、十時に出遊、日本橋の助に物

を指し中央傳事法念をこ解して詢く、
其海邊に折く、不在中其病も又徳
業の病も終る、竹拓隨筆と後正

三十一日

明、初来又徳業と稱心す、朝鮮の加茶
を其こを紙書し終を定め、其病も終る
其異國其書者の内、度元个ギリス者其配本
大坂の古地流木とて内用其書の
此念難の終正七本、其利来余の

寛政七牧の事、丹馬原平より未簡、
午後志と信を新有武花の波の映畫
を元田原原に飯とゆふ

九月

一日

明治六年前大震災當日也、三十数日
の方して地業の移略の成り、添削、尚法
教日を要す、三雲赤一、投簡九時定を

信の家を出て被服廠へ行かんと
自動車も馳る南元町より大衆路
より辛あつた麻所は毛も終り入る能へ
り浅草平を奏す、こゝ七六路道
日本橋と出て二二の物を贈りて
時を移す、本日二百十日平穩

二日

明治の同者故より台湾市場外巻を
類を送り来た、改上弘花も注射を施す

石塚三平其流、午後其浦端への告め式
ニ臨み、神田の二三土産を訪ひ武蔵風土記十
冊を購ひ、此價ハ十五圓也

三日

時刻未だ終極を蒙り、理髪、隨筆の物を鑑
心す、午後竟を付めに出ぬ、三城橋上三川村清
雄甚壽紀念油絵列を觀る、五時大橋
回者館に到り、圖書館場合の幹部會と
臨む、大江乙未未流

四日

時、坂口執事山田尚心其流、閑に乘して佳
待を相す、五時公館、淨念寺、廣嶽寺も果物
を贈り、未だ、午後文の巻を流の二三の回
考を猶め、吻書後、旅篋を懸心釋し、鶴
助雜氣才三集二冊と作り、此の巻を張込
ニ着手すの云

五日

兩朝東遊記を蒙り、朝鮮の加藤弘良と
其

者、十時三城を治る物を賜ふ、非、高、二、叙、一、七
内、二、ある、何、閑、谷、又、治、も、御、玉、史、料、の、つ、き、余
の、氣、筆、を、治、ひ、来、り、時、田、元、花、も、も、来、出、

六日

而、大、橋、城、一、と、考、状、を、考、り、う、屋、敷、の、順、と、治
を、出、す、人、の、湯、と、一、應、一、揮、毫、城、後、照、夜、未
如、の、人、渡、田、英、下、り、も、押、毫、を、高、め、り、り、り、
細、川、寺、者、ら、り、の、田、考、を、為、持、才、の、志、と、人、り、也
ず、翁、助、雜、爰、三、集、の、目、録、を、記、す。

七日

而、武、田、尾、末、に、内、書、心、高、田、徳、去、来
訪、加、益、知、良、ら、来、也、翁、助、雜、爰、三、集
二、冊、張、込、成、り、渡、田、英、一、中、押、毫、を、郵
送、午後、籠、網、を、考、し、又、籠、考、を、續、也。

八日

日

而、大、橋、城、一、と、考、状、を、考、り、う、屋、敷、の、順、と、治
を、出、す、人、の、湯、と、一、應、一、揮、毫、城、後、照、夜、未
如、の、人、渡、田、英、下、り、も、押、毫、を、高、め、り、り、り、
細、川、寺、者、ら、り、の、田、考、を、為、持、才、の、志、と、人、り、也
ず、翁、助、雜、爰、三、集、の、目、録、を、記、す。

分書ハ一と来書、名家手書、雜稿と
取山理一と巻を成す

九日

雨相来、雜稿と筆す、相解の加藤如良
と余の空の巻、隨筆と法文の所載を叙
して長問を答せしもの、十時の法印別の本
役分と臨む、二時切も書、梅岡恒切朝を
報し来り、雨問め、降り、花の山説を
讀む夕陽に別る

十日

干書

雨相来、旋録と筆す、流石と書し、加早東
慈心、西細念、利銘、つき、若好と寄せしもの、田
中書、山伯傳、配本、森脇美樹、来流、流、田英
一、中書、山伯傳、配本、森脇美樹、来流、流、田英
土志、料、総、合、目、録、別、来、午後、杉、坂、巻、を
訪、り、大、神、宮、遷、延、儀、式、并、神、具、の、法、列、を
見、り、文、行、堂、を、訪、り、二、三、の、圓、書、を、購、ふ、と、物
入、る、雨、風、甚、く、去、し、讀、出、し、時、を、終、す

十一。

雨、今二百十のりんと名、厄に此の繰上へん
てまゝの風をくもる候也。時の烈分
庭州ニもを伴し、外別と異状を
都中の浸水、家屋七番と云ふ、報す
朝来、花好も、兼す、内倉大定、来
宿、動、隨筆の行補心、此の補心、此の補心
一身上の件、二村、立判、鮮か、此の良
二返、筒を投す、未、森、山、後、此、午、後、未
隨筆、を、納、終、了、台、湾、重、極、と、物、を、納、り、未

の、植、木、局、来、り、二、三、葉、ん、と、是、樹、を、起、す
今、津、二、と、為、谷、別、在、の、風、況、を、報、し、来、り、

十二。

雨、隨筆の行を補心して時を移す、為
田、身、家、も、来、り、午、後、花、好、を、報、し、時、を
移、す、吉、村、馬、植、木、局、支、那、土、産、と、し
木、葉、茶、葉、を、報、し、悪、天、氣、戸、外、に、出
日、結、り、終、日、報、書、二、三、夜、二、返、り、る、由、り、

十三日

雨寒冷甚し、朝来砲兵を警備す、山田守心等
接應し、梅津和軒、東坊山若王摩訶を
贈す。出陣部千五の回借入、十一時外出日
を指し、物を贈ふ、雨収まり、風も冷し
午後又砲兵を警備す、王摩訶法を談み、款
入す

十日

昨、朝来砲兵の行を袖心し、十数枚成る、改
上注射を施し、未だ、毛利官舎跡にて未だ
午後供人の細川書生と訪ふ、二三の圓を
を贈ひ、朝来又砲兵と補給す。

十一日

昨、朝来砲兵の行を袖心し、早速砲兵と銅像の
刻銘筆心と托す、おる、田の武文を、書物と
書し、書を托す、おる、田の武文を、書物と
書す、田中穂積、村宗八、森登三、交々、東坊
十時おる、日本橋下谷浅谷を、行ふ、物
入す、六の申、通儀丸、志長、徳と、贈ふ、亦砲

筆と酒也十枚成る。山と酒也とを以て

十二日

所、刑来泡筆を補心し正午と十七枚
成る。酒也と、敬少入江一毛利宮彦本
流、酒和の物中、鑑次、中、と物と貯る。所
得、全税額、と不服、と為め、未納、と日を曠、と
此、加、と、納付、其、高、附加税、と、五、百、五、十、四、
也。五、時、其、田、善、次、ら、し、と、作、の、被、奪、の、旨、曰、人
と、共、と、納、付、の、旨、を、受、く、鹿、島、示、の、旨、

よ、来、書、の

十七日

噴、風、と、柳、島、恒、西、村、兵、次、前、田、尾、克、及、口
献、書、交、と、手、持、出、渡、部、と、三、冊、山、利
配、本、新、作、の、山、三、八、と、梨、果、一、画、書、の
七、年、の、先、と、付、と、出、渡、口、も、持、と、物、と
購、以、書、二、画、：、研、少、七、切、書、後、所、し、と、夕、刻
：、利、と、大、眼、八、と、者、と、以、同、刻、を、流、す、先
と、也、す、

十八日

所朝来旅をて淡山、里井並日九の田熱か
印方より始分をもて小橋、午後神田の方を海
へて別摺本江に名所園今二十冊親見伊勢
物本を得てゆへ、度濃の暇も余ら先方の
祥月佛前、供しむる菓あよと送り来る、森林
方々の山居方れ記を淡山、

十九日

所朝来臨草を補心し又旅記と草す、

山居時を耳初、石塚にて中、姓て来旅
午後旅書と後、度濃の暇も山三八
二所をもり、五時よ士令彼、森本あを松
飲、北人ときま、回考校協分をもて代、て羅馬
と湖かん、回考校回考令湖、是列由相
し、也、杉本善一、来也

二十日

所朝来臨草の行を補心す、段々献ま先代
の紀念、五卷の影を出版せんとし、其

稿と高々し来り一二の注意を並み、五出年
影の題巻を著し七遣いす、早大委員
と徳長紀念教職多し高基金三十五着の
と各集の書類列の五る因中心、散策文の
重と坊の二二の園方をいへり、午後八
面あり、既報とありし時を移し、夜入り
又降り

二十一日

雨、朝来降ぬをまじす、降る来り文り也

をにひる二二三の方を嬉しゆ来り又既報を
兼す、飯中湯ありしも来り向依れしに
の早速整ふの身細家の銀成り、長に満ち
淨念寺に布施十日郵送

二十二日

雨、随筆を補心す、又既報を兼す、先を
付して浅学の杉井守の映画をてん
金田に飯し七物く、飯表社の五方木良
三つし来り也

二十三日

秋重望重祭

晴酒色多牧中酒次中に投簡致上
来り注射と云又く、池田吉吉市印等
逢色址野彰の件に付其法跡之切本
三印来り所山甚日本橋業法を照らす
午後散策日本橋沿生と物を贈りて物くる
尖江成てと幅二通り野宮と初以来り
能依江下生流所完て五下教寺合立由来
を載てあり請過りり。

二十四日

晴、森脇美樹寺より、雑録を著し、
上後古、源と云身と云未也、高原生
九と云い別り。

二十五日

晴、朝来能ぬと兼来り武田尾吉寺功院
て高須芳治中し其後上仰喜ぶ次在来り
角田柳心と云来也、午後散策珠姫園文
行也、四五の回書と撰山、高須柳行と云
来書

より来間十一時迄と付て散策、琳瑯園文の
堂、園方と嬉めて回つ、浄念寺と松山寺と
廻り来り、夜八時

二十九日

日

而相来程程と筆す、小川前蔵打狹く撃つ
て返り、今狼狽の打柄、田中前首打狹く
打つて急死の勢、野分利、山崎、夏と付
て高野山に登ると、山崎、夏と付、
山崎、夏と付、山崎、夏と付、

格、
つ、依、
つ、依、

三十日

向、
来、
係、
才、
上、
今、

〇
十月

一日

時、牧野通治中へ出状をなす、徳政を尊し
的を移す、新町に乘し、敬業光の若拍を鑑
ふ、養生中、飲しと悔く、まゝ、東京市、自治
和施の末三十一回記念日也、徳業下の原
利と尊心、徳に入る

二日

時、まの伊勢大廟遷座の日と一般休業

刊業、地業と業心、森田美樹、
九時、物中、通治中を訪る、銅像、
を可しと悔く、海と、まゝ、又、
の、徳を必し二十、敬業光、
す、午後、敬業市中の、換、
程子と題し、悔く、
徳に入る、牧野通治中へ、

三日

墨、朝業、徳を、補、
徳に入る、

しむ、左部の研究会大文字屋より松葉と贈り
来る。

而

八日

頃、大石理田氏より、隨筆原稿校訂漏りの
分約三分の二交付す、棒亦七本、訪朝来
隨筆も校訂す、森脇美村来稿三葉
宛のものと平形抄紙二つき、来書午後
早大の催お負合に歸り、三時帰宅後又隨
筆の稿亦を校訂す。

九日

陰朝来坂の五葉平紙念帳にぬらぬき稿
を著し、山田清也氏に福福物をも
配本、文の揃合の随筆にぬらぬき稿を
交付す、物々揃合中一と近著講座
新義と字の七本あり、菊池晩香の七の志
二つき、物と贈り来る。十時より山
印刷舎に礼の重役合に歸り、二三葉要
の字と揃合し一時帰宅、今夜高松山
冬語の爲向子回付二つき、随筆心と為

す、菊池家へ香典五圓を送る。台湾へ回る
後編今を運寄せ考きの満島列島、今津八一も其
間、石塚も梨果を贈り来る。台湾考考其堅
三の浦島列島、今夜七時三十分の特急を内
子回付大へ向け出る。先着谷川元送り
の停車場まで来る。昨日三度旅行の手八
千圓手形期限二つき更し別引をらす
べく別引料金八十五圓も守る。留る
尚不年平の家用として七圓と五十四元二
四十五圓交付。

十日

今朝雨ふ。五時米原も目もさぶ。向子通寄
不眠七時十分大夜と着知る。五やまの野
頭と迎ふ。日付花袋に投ず。雨天坂之山を不
便と一日大夜に滞在し決し、立即去る。と
連丸自動車も起り、心高橋筋大丸着、
道に極の冬座を元四の橋を過ぎ天満堂
を拜し阪急の停車場に電車に乗換へ
六甲山麓の橋中別荘に今酒飲し三時
花家へゆき早く寝ぬ。高島やむく山牧を

あり

十一日

今朝雨霽る、若おの二半を可く留め、八時
形勢よりと付、五時の由文七換投来
る、八時半南海電車に乗る、車中
旅出甚し、市野下驛まで約一時半
かゝる、前年来るし時電車はこゝろを
丹きとしか今に乗換極楽橋に到る電
車あり、急勾配を行く為め特種

電車を設く、極楽橋に約三十分
間陸道十七七を敷く、極楽橋下
車にんらと笠輿を俵を行く、此
ヶ一がんある彼の計畫あり、中
んも未試する十二時已清浄心院
に着、喫飯後佛の案内にて墓所参
詣、宗家の二墓の墓を展し、多著
を供く、後延州墓を為す、三時物院
院主中僧正次、省智抄撰の為、
由意へ来る、此佛寶龜院に任職

けりし時相識る、余が其家を訪るに、
高命の年暮候ハ臨終道行冥々しく、
コウシ子んを命と稱して冥を守護す、夕
刻とも雨烈る、其事書し消息を傳へ、
内子ある親の爲の厨子入法牌と心り
院ニ置くに此料七十目也

十二日

頃六時起床、互に佛壇ニ道守の法座の席
ニ歸ち、余が家の法牌の外ニ宗家并に今

田舎まきの家の位牌 一を佛前ニ置き
別に余が家の親族三十餘人の法名を
辛部邊に認め、総供養を爲す、燒香
畢り院主の家に到り、替時法衣と文心
喫飯、寺の爲りて金地紙冊二枚押
高毛、布施布田名泊料 五十目、和の家
日牌料七十目、ある由の通り、十四寺男
、五日過ぎ、九時寺を辭し、後僧の桑
内りて、雲窓の跋法列の寶物を乞ふ、
金剛峯寺の法伽藍を歴観し

年炎上の金堂今復興する事也
多刹堂寺に入ら香次自殺の事
其他を一切忘れし駕つ花に乗り下山
の途に執く十時十一時也十二時極楽
橋に着きたる電車一に降り十二時有る
下り他の電車に乗換二時迄難波
に着きたる花家へゆき、下山の途に
念の事を取らぬ道にさうし為め空波云
しく花食らる一杯を傾け返寐す
時の五つを付りたる長く休くこと

又決し五中と別り、五中家内と金三
十田老す

十三日 日

何時、夫ふ良見物に上京都に入ると決
し、尚お全部を京都野へ送り、軽装
出發、五中、回付、五中娘の聲、磯部喜
一七挨拶、来る、先づ四天王寺と、この境
内を遊覧し、附近の停車場と、織造
三乗り、柏原王寺、おと、法隆寺野

二利之下車、十二所乗合自動車にて法隆寺に到り、日待冬法金を寶庫寺に説罪と虎ノ十二時二十分の汽車にて郡山を経奈良に達す、人車を僦めて猿渡池に呈山春日社手向山車大寺大佛殿奥福寺等を歴行二時五十分京都の汽車に投じ、三、四、五、六と別々車中至腹を免ぐ麦酒を飲け候と返す四時二十分京都着直に大文字尾に投す、東京宅、二三の休かきを出す、

十四日

晴、朝めしを岡山公つと内の王命を念に公八との内子の望み佐かを自動車を僦りて行く、此家甘すとばう鱈の神起と在あり、家前といふ不うの肴牌を搦く筒易公らをもろんも味佳也、栗飯、豆飯、吸物、おを出す、朝まで酒一瓶を伴す、徒歩、旅者、ゆき、金、中、道、夕、尾、をひやめし、銀、五、一、支、那、玩、具、小、品、お、を、辨、別、二、通、り、家、候、に、接、す、

午の平流：おぶの妻ありし七内子を
悔念に就かんとことを望むるより平流の
を兄令かせ、東土養生を贈へんと大丸
其時店を訪れを及物を買い入れ、南
祿寺境内の敷居に入り酒会す、余此の
家とまきこびあり入る毎にこゝよあり、身都
白餅を食ふ、夕も亦然り、切符後二時方
飯森八時十分の急の汽車より七内子
の途に就く

十五。

昨七時三十分在東野着、直に物巻、内田魯
唐遺族を、毒魚の自傷五十員方と
言ふを、と照る、此方あり九中、西儀三
神田去得、ふりし柿草を寄せ来り、台
葛杉本長一、ゆみ美四、り来音、伊考
保、市、野、塾、生、の、室、の、か、き、の、端、出、外、敷
十色の雅信に接す、村山純と能く果
拍を照り来り、五中、内田、牧、中、論、次
卯、祐、回、去、得、此、あ、あ、新、九、中、秘、状

を寄す、和友中、村山為に助、八間、
去勢の爲の家高、為院、八院、せしめ、大
退院、平山、中、と書、画、主、目、録、一、通、列、来、

十一日

明報来、隨筆の行、と校訂す、山、林、望、三、其、彦
より、ゆくり、土、香、と贈り、村山秋浦来、振、高、其
其、谷、自、筆、自、注、の、印、影、双、幅、を、贈、り、四、十、田、渡
浜、朝鮮の加、原、を、良、と、来、と、自、刻、印
百、顆、印、譜、一、卷、と、寄、り、せ、り、也、和、友、中、

し、物を贈り来り、治、海、心、院、と、来、出
校、友、合、り、心、式、祝、賀、の、祝、状、列、り、先
を、伴、り、白、布、厨、に、列、り、其、時、と、贈、り、資
上、聖、に、致、し、て、ゆ、り、也、亦、造、筆、の、行、を、修
む、位、を、寄、り、五、木、元、大、中、の、古、状、列、り、

十七日

大祭日

曇天、朔来、隨筆の行、を、修、り、廿三日、工、其、集
化、生、部、に、松、七、内、孫、久、寛、好、と、村、山、龜、一
郎、の、女、と、結、婚、校、友、に、祝、状、を、寄、り、山、望、三、

東の山を渡りて、十時を過ぎても、出遊浅
谷の杉林、登の映畫をえり、其の桂次郎、未
也、雄波理一、其の松平、を贈る、整
理湯の原、大石理田、文也

十八日

武田尾を、出遊部用を、未接、唯、多、一
前を、扱、且、つ、及、扱、及、送、つ、内、為、又、寛、并、下
林、尾、雄、方、法、塔、の、祝、三、紙、の、切、手、を、贈
る、池、草、の、行、を、訂、修、す、高、野、の、法、心、院、

五、き、忘、ん、法、名、松、度、の、来、り、平、後、七、池、草
の、修、行、を、つ、け、る。

十九日

町、坂、の、献、五、五、草、此、念、録、の、件、に、甘、未、法、
山、田、法、心、の、家、存、の、密、校、書、を、六、入、付、し
て、お、田、美、次、郎、お、ろ、行、か、し、お、田、模、心
の、書、あ、る、が、故、り、池、草、の、行、を、教、心、理
し、て、よ、り、を、易、く、す、立、朝、解、外、存、印、良
か、余、の、為、め、す、刻、し、た、り、尾、印、百、顆、印、譜

二三郷人も田舎者といはれし酒家としてあり、田
多く伴ひし等には枝取の河上唐井松井高
原舟崎外二人也

二十一日

町、朝暮遊覧をせしす、出陣部の軍宅に
太らよみ流、難波理一、午後金馬
流方の先お式と臨み、妻子宅臨み町を更
らよみ、自動車と馳せ高橋村自の
葬式と列し、泊宿入り、中と主客の四五の

回者と勝つてゆく、又刺光と伴ひて三城に
髪具と購ひ甚く所々酒飲す、高橋村
より流、河邊流と馳り来り、高橋村内と全の
溪流とありし等也

二十二日

町、朝暮、散策、神田下谷本柳、浅草の志居
と歴流し、回者を逸り、寺屋清り、勘定
の内杉中町、二乃回村、しる事、内柳、
珠路、長山、細川、流、金満、古柳

祝賀に記念為代り七郎んが金の一事
尽く、元禄版漫筆像一幅富藏用印
判の代りあるものゝを梅あてゆくの不
幸中、改に献をすまひ、河井あ後ら
未書、出の料子らと満洲土産二三
を贈り来る。雑紙と草しと時を移す

二十三日

晴朝来雅紙を奉り、解人趙炳傑すまひの書と
初め相解十数本贈り、鳥尾三介すまひ

古稀を祝するとして 鯉の節も贈り、大石
理田すまひ徳基の行のき打合をすまひと去
る改上弘義のすまひ注射と施す、坂口献吉森
脚美樹すまひ接、美田素志すまひ十一回配本、西村
直一、次来流、市井内長庚、前す、五時
より二葉俣生部と利り内谷村山の佐崎
校直人らと臨む、此の大隈龍子と久余の
古稀を祝する為のすまひ訪り、鯉の節(万圓)
銀札表の電、先、半懸紙の文鎮と贈り、昂
より平大祝賀の流、動字とすまひと御蔭に供

し、亦之庭園に立ち活動入つて世々
い化念とまき、豊後津総督府同考館に
湾資料展覧視見候と寄りせり。亦亦
昌三とて、Xロニ到来、伊藤輔利とて、
今科の年典を寄りてり。

二十四日

時武田尾吉、本坊真治桂次、中野東平、
思魁と船、村上物、即ち本坊、本吉、
津八一の消息、利、本吉、田信吉、
二十廿

如き梨果を貯り来る、平政見を付て、
明日大隈邸へお参り、き、菓子、
梅の、村山秋浦、柿、
多し、梨葉、
柿、
湯原元、
と、
二十廿

雨、宇都宮、
を、
二十廿

小果物を贈る、十時より出政親の御前へ
臨み河内集才殿に参り、おのゝろを揚言す
侍を召置、治を限りて申す、二時
本陣と共、熱田の海邊に到り、山々
大隈家と云、尚海列を考ふ、(き)下換を
を考ふ。

二十六日

雨、朝来人の瀧と云、じ敷紙押、坂口敵
未来、橋も橋、三三、海克と云、七、未。

未田、佐生、高橋、三三、海克と云、七、未
瀬、怖と云、我を分す、午後、華族、分、給、と云、き
文、修、場、今、の、海、治、今、と、飾、お、海、甲、方、佐、小、植
和、鞠、の、軍、給、と、就、こ、の、海、治、身、立、時、今、を
閉、つ、日、本、石、油、今、給、と、本、期、能、申、給、ぬ

二十七日

日

時、三、時、前、く、河、内、を、投、ず、手、塚、弘、平、と、し
甲、お、菊、菊、を、贈、り、来、る、内、森、久、吉、と、し、未
書、随、筆、に、追、加、す、(き)一二の、行、を、記、す、十

雨、楠瀬日年内各信託に画幅を持卷、跡を
下林久雄縁袂破れ、親に託してある所得税
五万圓(附加税多)納付、松井雄流、午後
無聊雨を聴き、小説を讀み、五時如
多、歸りあり三人合をいらく、深更、仲書、宗
家、先代法要(十一月七日)のあまの列。

三十一

雨、隨筆に収め、き最後の面影を伝り
大石地田、投り、丹美、原平、祖父母

母法要の葉子と、海をこぎ、
書状と、武田尾玄、橋、石堂元
舟、來治、出、近刊者、上、種、紀、本
散策、神田の古名、圓方を、橋、
京都、杉浦、立、園、江、時、代、刊、行、園
ち、身、保、と、空、の、也、あ、る、

三十一日

時、丹美、原平、香を、賜、上、弘、為、あり
江、射、を、施、す、ゆ、の、こ、と、丹美、の、前、す、

生余、礼負、田中、菊、道とを、内務、大、意、二、復、及、す、東
部、杉、浦、丘、園、二、湖、状、と、名、を、つ、内、務、大、意、未
訖、神、瀬、日、年、一、二、三、日、用、入、者、状、を、名、
す、午、後、散、策、日、を、持、始、生、淺、草、を、廻、り、内
一、二、在、遠、堂、二、望、多、肉、と、未、也、

〇 十月

一日

町、村、上、專、務、逝、く、赤、林、殿、美、相、存、務、今、の、件、二、(モ)
未、訪、隨、筆、下、の、序、を、稿、す、午、後、演、劇、場

物、段、二、到、り、復、電、會、の、園、方、演、列、と、観、る、
土、田、吉、村、の、隨、筆、と、後、又、お、入、る、演、劇、場、物
段、二、到、り、字、と、十、数、枚、と、字、の、と、り、も、ら、お
着、座、自、幼、鳥、と、果、物、を、持、来、し、お、入、り、演、
口、傳、献、主、余、の、演、目、と、世、の、う、ら、む、五、峰
の、起、持、卷、五、峰、の、忘、の、お、せ

二日

町、隨、筆、の、休、一、か、き、し、を、洋、言、二、七、大
石、現、山、交、付、四、を、社、の、小、館、秀、雄、氏

親割の事あり

五日

時楠瀬日年之囑一印之款ハ印券乃春城
没筆下の虚ニ捺す用也其路未之人未
余の古端と祝し七物を贈る。旅費を兼
す。新居の山林三八ニ謝書を為す。



春城没筆の標款を兼（大石方へ送る）
内子真路光敬より夜座の初割に行く
山中推三之状を為す、関山未未也。

二〇

鳴、今朝のらりハ全圃共産重八万廿五石速捕
起訴を傷ハ朝来旅費を兼す。中野種四
大石理山河井兼俊未路山田信行既
来り。甚厚の市極し。龍眼肉一函を六
七来り。午後佳也。旅費の五石を為す。

集其地を決す、記由を割の中迄午後去つ
と物取上ゆて、田うり文の巻と活の墨は
若山と墨子とを素一冊を贈り加ふる
韓の如のよと見え、外に寛永法字版は
記の冊を贈り、高橋部一とある、十田其子、河
井、高橋とも見え、加ふる良楠、正雄、と来
簡新のまの信主とも、梨子ともお寄るとある、
早大も、号別視察の為洋のを命し、岡村千
史、出、若、日、つき挨拶、批列。

十四日

晴、山口別荘、元花、其、山、口、に、家、持、行、を、六、海
國、狂、歌、集、を、貸、付、山、口、と、し、版、本、六、冊、つ、き、狂、歌
集、を、贈、り、大、橋、岡、寺、飯、の、巾、内、奉、心、奉、助
岡、寺、飯、協、会、員、の、酒、俵、類、未、を、報、し、と、ある、
坂、石、三、年、森、脇、美、村、互、訪、文、的、協、会、が、報
知、社、の、復、核、を、藉、り、件、二、つ、と、考、的、考、院、が、
大、石、理、田、寺、の、泡、草、の、頁、数、多、き、と、い、ふ、こ
つ、き、三、四、の、項、を、扱、き、い、ふ、こ、し、を、堀、内、が、午
後、人、の、為、の、一、揮、其、毛、毫、次、り、未、亡、人、登

の報あり、教員日本橋を往くを以て不在中
三賦の多しの手紙、高白の宛先も未だ訪ねず
飲酒

十日

時、山田清心和回純未流、中尾市共、侯補
二の七、後井一こ、一箇を授ず、東田納し、時
り未書、三賦の多し、重雅、東流三十日、如多、山人
の遺、墨陣列、二の七、余の講演を求む、讀し、
迄す、午後、理哲友、今夜、非、出、改、下、均、二、其、
つ、る、の、回、町、内、証、親、令、と、臨、也、

十六日

時、三才未立、死云、このま、丹、美、つ、秀、典、入、有、状、と
書、す、以、所、乃、吉、田、代、主、と、謂、ふ、と、是、乃、す、夏、夏、目
鏡、子、を、も、漱、石、の、忠、出、し、を、寄、せ、る、の、早、東、
整、香、銅、像、銘、板、奉、と、謂、ふ、と、其、つ、ま、も、送、り
未、く、又、春、秋、社、も、寄、信、を、求、め、未、ぬ、也、
内、善、心、国、書、館、協、会、つ、ま、懸、こ、の、き、で、送、り、
後、大、隈、會、館、に、到、り、報、知、社、又、の、協、会、と、連、合、の、
座、談、会、と、い、ふ、大、隈、若、滿、淳、子、夫、等、が、由、
鎌、田、未、延、遠、成、尾、依、牛、燈、壇、淳、中、等、入、札、也、

印(坂本三平) 徳島三平 大隈元彦を中心として
の流布年の種々の法に渉り、一時散会、宗
家も法要の事方子別年、

十七日

日

所、京橋回生館復員記念として山比谷園中
館長今原在沙(紙又庵)を招き来り、田中
穂積(紙又庵)光として矢吹の家を訪り、
明次宗家井町吉、招り、今原、尚也を招き、
電話料納付、校友山本二郎(福)日(福)名(福)の

為め余の寄福をたまに送して還す、並木芳
た(り)も幼年(り)を其(り)す、月末三紙(り)講談
を約(り)し、おま(り)入(り)造(り)の服(り)を定(り)む夜
来(り)ぬ

十八日

而、園中の松樹半ハ仁を置す、田淵来り、
上(り)の内の(り)つ(り)し、由(り)法(り)も去(り)る、吉田(り)祥(り)三(り)平(り)
も来(り)ぬ、燈(り)を筆(り)し、七(り)時(り)を福(り)す、午後(り)人の
為(り)に、備(り)本(り)二(り)枚(り)揮(り)毫(り)、梅(り)井(り)忠(り)温(り)の(り)烟(り)幕(り)
を張(り)ぬ、今(り)夜(り)招(り)れ(り)て(り)柿(り)川(り)の(り)家(り)へ(り)あ(り)り、物(り)寄(り)

高教義社令教育の由、関尾龍夫入洋連記
新乃新乃の伴純とて、三國書評伝の予を敬
し奉る、吉田祥三印、とて、品、漢、好、を、毎、定、の、毛
身、の、今、夜、富、家、定、の、必、然、の、事、と、受、く

十九日

市、本、林、森、の、久、廣、井、一、の、考、執、列、の、三、村、法、三、中
身、の、行、の、の、き、の、考、執、家、に、引、き、終、り、家、花、に、印
を、弄、す、三、村、印、蛇、二、十、教、紙、を、取、つ、毛、辞
去、古、印、幅、一、枚、と、賜、ふ。丹、兵、宗、平、作、内

美心とて、未、前、夜、半、に、索、あり

二十日

昨、廣、井、一、の、考、執、を、知、り、終、く、物、又、す、極、市、松、の、手
入、に、奉、る、福、井、法、三、印、身、の、行、の、の、考、執、列、の、三、村、法、三、中
身、の、行、の、の、き、の、考、執、家、に、引、き、終、り、家、花、に、印
を、弄、す、三、村、印、蛇、二、十、教、紙、を、取、つ、毛、辞
去、古、印、幅、一、枚、と、賜、ふ。丹、兵、宗、平、作、内
訪、上、村、益、中、一、三、十、六、人、家、集、出、版、の、の、き、の、考、執、列、の、三、村、法、三、中
身、の、行、の、の、き、の、考、執、家、に、引、き、終、り、家、花、に、印
を、弄、す、三、村、印、蛇、二、十、教、紙、を、取、つ、毛、辞
去、古、印、幅、一、枚、と、賜、ふ。丹、兵、宗、平、作、内

本、午後今迄並海國方領場令一件に付是迄
吉田和男より来出、夜後小山内集を談す、

二十一日

市、森崎三村正雄、小色を説き、十時出政部の
林幸徳、臨む、朝野社、戸田森脚と共、
大隈侯方前改列に別し、其時場議する事
あり、三村清三、午もと来書、三川の依り好よ
リ柿鴨、小倉と定めて、植木屋三人
可の、樹木の干入と為す、前口の如し、出也

部をも全ち自傷り、夜、飯田早男、其時五時
より、比谷の表の茶屋に令し、同方領場令の
四五回人と、其の法、人組織、記す、其の内
海より、依り、此、余の、左端を説く、生編を
定む、其、和、池、大、島、正、一、と、来、出、

二十二日

市、植木屋三人引續き、其、七、時、訪、今、此、在
海と、日、比、谷、同、方、領、場、令、在、其、内、島、の、島
為、此、其、内、島、郵、便、令、送、午、後、海、令、

利と利の、小説談

二十三日

大坂

昨、植木屋三人引續き、九時今井貫一と丸の内ホテルに訪ひ、冬田為三郎、田原三郎、破協会の社団法人二件につき話し、結句、留保を要するの意を今井を以て松本理事長に致し、一と二の折合を為し、余三人とて今井を以て、花の巻を以て、報き、午、花巻を以て、四時、家、不、中、改、上、花、巻、の

長女九妙、婿嫁のあり、外、二、七、生、お、い、為、の、身、二、三、の、物、を、貯、り、甚、深、の、山、中、推、よ、り、来、向、寺、時、元、重、を、被、施、を、今、今、也、也、。

二十四日

日

昨、朝、未、文、藝、春、秋、二、三、巻、を、起、し、略、之、成、六、十、一、時、迄、を、傳、を、教、来、日、本、橋、白、木、三、其、段、を、結、合、柄、時、に、破、し、七、物、一、三、根、未、を、三、人、其、段、新、河、の、橋、の、折、破、し、も、梨、果、一、三、折、為、り、未、也、。

小雨、土と起す一稿を新年節の文藝春
秋に投す。山田清心、東路、後志、多志、二配本
三美、宮業部より、及、美山人の書、西を
陣列用と借り、未だ即ち成り付く、福
富の、新書の新年節に勸すべく
杞きん、多志、お十、五枚書き、終り、植木、念
降、向の、為、字、の、可、あ、つ、本、林、安、の、友、と、し、未、書、下
林、貞、飛、島、未、の、

晴、福富の、の、為、の、主、御、子、酒、と、人、と、山、本、二、印
一、部、又、一、部、書、後、三、枚、許、補、給、を、心、公、自、利、堂
彦、校、友、市、務、録、等、古、本、函、言、業、と、新、書、余
の、活、活、也、等、へ、と、去、る、新、書、の、田、の、高、多、存、沈、光、等
来、古、浄、念、寺、檀、中、惣、代、市、吟、鉄、太、印、金
二十、四、部、送、城、後、旋、命、と、味、崎、大、抄、列
来、代、物、並、木、山、光、と、美、山、魚、用、廿、十、也、列、来
午、後、毛、利、安、彦、の、囀、と、意、し、て、目、録、也、
来、の、傾、向、に、就、て、立、行、十、数、枚、成、ん、と、未、定

上原忠生遺書の刊行

二十七

此尺、目録、序の形勢、二命、國書、跋、と、素研
実今の毛利忠房に授す、今井豊一と、電話、と
杉本喜一と、内証不調と、通し、来、杉本、脚、来、話、植
木、野、野、氏、二人、来、大石、理、田、と、尚、す、又
古、田、秀、人、黒、田、清、也、と、尚、す、山、本、二、中、と、外
証、二、竹、福、と、寄、好、の、酒、と、人、と、二、三、紙、補、足
す、高、橋、市、と、り、跡、と、来、河、森、氏、忠、生、遺、書、一、冊

配本、序、の、家、治、迄、ま、早、速、致、西、田、保、隆、奉
式、二、月、未、尚

二十八日

時、久、吹、舟、三、ら、し、亡、妻、の、三、年、忌、紀、念、品、と、一、七
葉、不、四、十、枚、と、贈、り、来、る、横、本、屋、三、人、入、り、未
了、藤、美、世、代、を、讀、む、も、利、忠、房、と、未、去、石
田、元、花、全、の、泡、茶、集、装、祓、の、子、外、話、二、冊
倚、面、鏡、二、刺、り、上、原、忠、生、遺、書、の、先、外、式、に
臨、出、音、典、八、十、四、巻、を、文、行、堂、四、行、二

の圖書を購て詢す。北紙新報社并、高橋
政一の書に接す。

二十九日

頃朝来宛報と申す。楠湖四年一六五理四捧
六七年来、白鳥文亮、云批と書す。北紙新報
并、関方らの為り押書。午後華族会館に
到り二時とて文の場合の辨論会もひらく。尾佐
中、檀の海濱あり。森木是外、の罪漢復の古
尾を贈す。又後後三年と宛今、中念の、什

光りし七物を流し、久吹方を訪りし。市報
沈きしと来也。

三十日

頃、高橋沈きし。試問書先生撰、云、皇會、外、の巻
徳書帳と寄せり。十時報知社に到り、大隈
侯文書の海濱を見了。午時作書。後し、三紙
去時、在、到り、如、美、山、人、廿七回、忌、比、念、勝、列
也、見、(七階上)海濱、物、に、松、と、山、人、の、乾、と、一、時、万、半
海濱と為す。江見、亦、薩、山、麓、谷、木、波、七、金、と、有

後も登場、今病人と以てを凌ぐ。四時物事、雨
ふ。今得る甚しと、今朝金見を物す。旋銀
を著し、物又ふ。市山鉄を中し、未簡台
湾重極、物も美。家危、税旋、税納付
郵船、今此の配南、領手。

十二月

一日

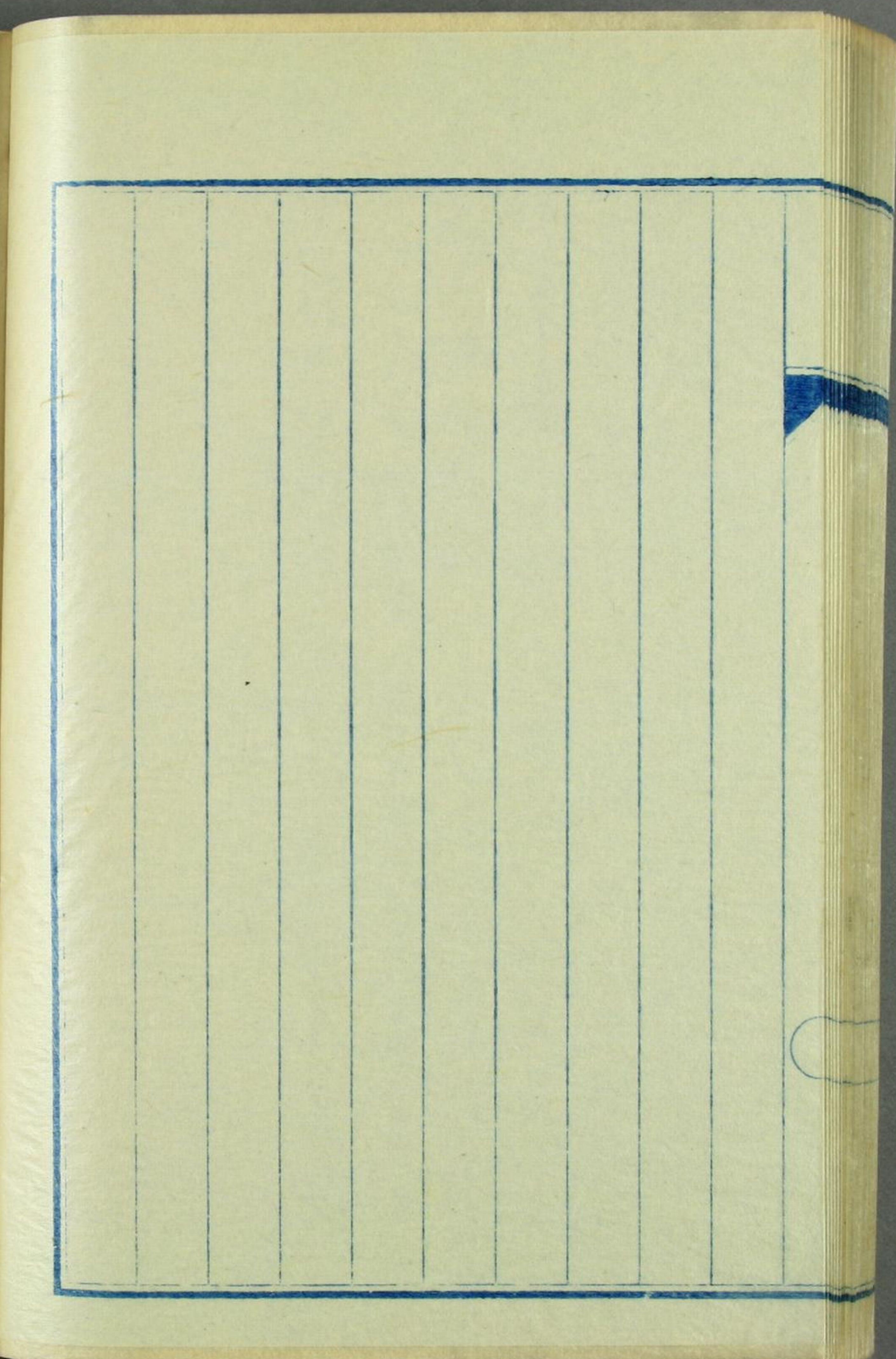
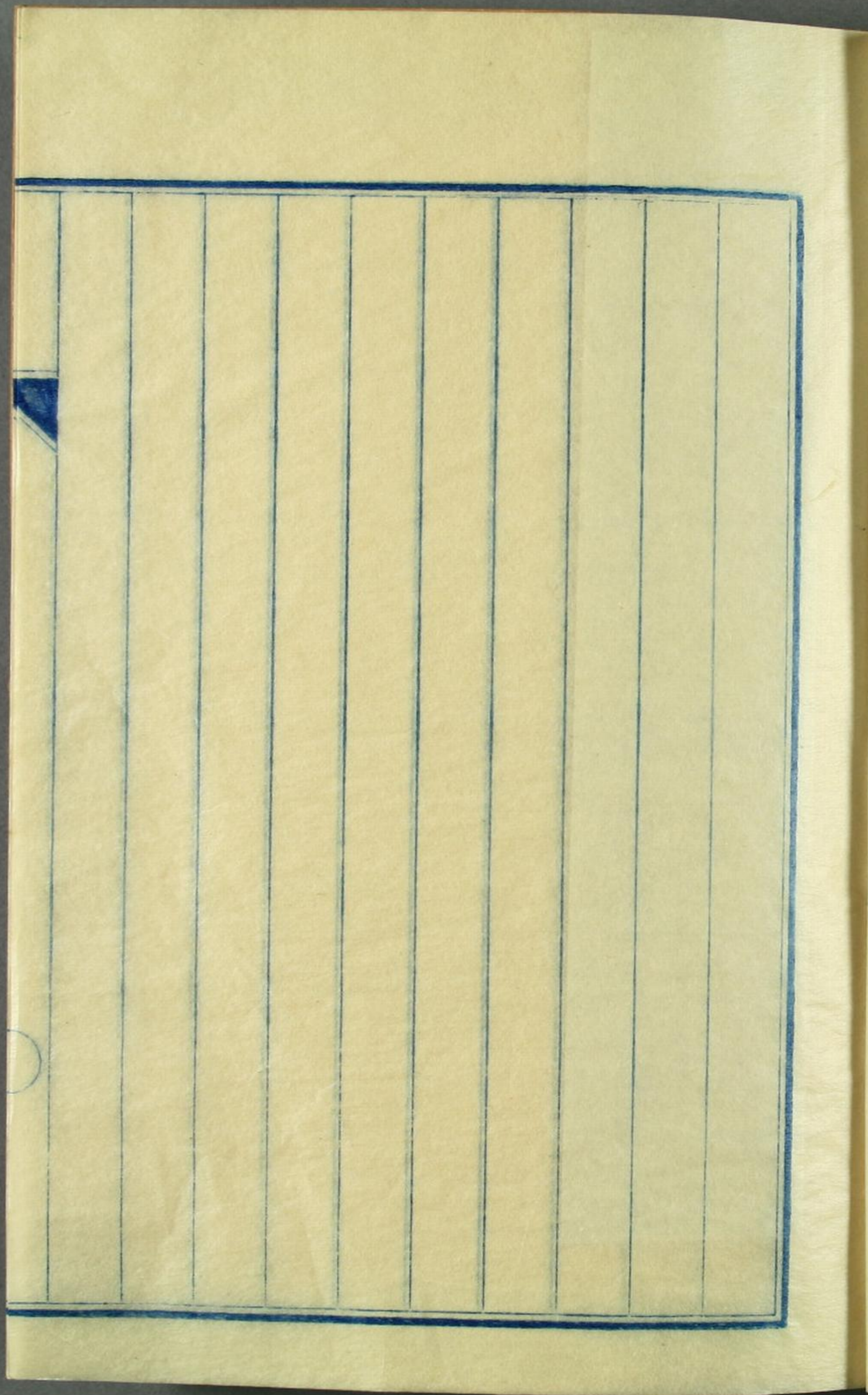
日

明日、木倉、六三、八、月、相未、旋銀、を著す。圓
子、銀、海、子、運、入、問題、并、二、對、本、地、銀、二、つ、き、和
田、萬、五、今、得、甚、し、極、極、井、清、且、中、大、田、為、三

即ち、功、由、福、を、遂、げ、午、銀、を、供、し、午、後、
到、り、杉、村、論、三、中、打、致、字、宛、の、宛、を、為、中
冊、を、折、り、し、ま、り、余、の、題、目、を、終、り、三、紙、上
り、海、濱、の、謝、詞、と、し、七、中、日、寄、り、を、な、し、
住、友、信、托、金、此、と、し、七、中、日、寄、り、を、利、子、二、百
三十、銀、圓、別、り、な、し、三、紙、依、託、の、宛、を、紀、念、帳
抄、冊、毫、六、松、村、信、託、之、致、字、宛、の、宛、本、三
十、冊、迄、以、命、を、著、す、五、時、神、田、末、房、の、所
の、四、時、堂、に、託、し、四、時、堂、に、託、し、

二日

明、朝来旅宿をあらす、板市を三人取り、十時
迄と仮名出せ、日と宿に二三の月を兼
し、午頃と物入る、併以三時召、此間未だ
人取込物を焼く、ヤニ煙一斗をきし、此間未だ
スパーン筆打あう、夕方迄の午入、筆の煙念
寺檀中迄代も、未だ内藤久寛より来ぬ、



以下全て

白紙

